

Case : 242

本体と壁の間に指を挟み、ケガをしそうになる

場面の説明

ドアを避けようと壁際を歩いていたら、歩行車のグリップを握っていた指が壁にこすれてしまった



利用シーン	 移動
主な利用場所	 寝室
	 リビング・居間
	 ダイニング・食堂
	 廊下
	 玄関
介護保険の種目	 歩行器
分類コード (CCTA95)	120606 (歩行車)
介護テクノロジー	—
二次元バーコード	

解説

廊下の狭いところを通過しようとしたのでしょうか。狭くはなくても歩行の進路が定まらず、壁に寄って行ってしまったのかもしれません。壁がブロックなどでは容易に皮膚を傷つけてしまいます。このようなことが頻繁に起こるようであれば、壁側に緩衝材を取り付けるなど利用者の歩く意欲を大切にされた対策をとることが大切です。

参考要因（要因の例であり、これだけが正解ということではありません）

- 人：進行方向をうまく制御できなかった
- 人：前方をよく見ていなかった
- モノ：簡単に進路を変更できる構造ではなかった
- 環境：狭い通路だった

日付：	所属：	氏名：
-----	-----	-----

Case : 242

本体と壁の間に指を挟み、ケガをしそうになる

事例詳細



回答前に見ないこと

場面の説明

ドアを避けようと壁際を歩いていたため、歩行車のグリップを握っていた指が壁にこすれてしまった



どのような要因が考えられますか？	どのような対策が必要でしょうか？
人（本人・介護者・関係者）の要因	
モノ（福祉用具）の要因	
環境の要因	
管理の要因	

メモ